



第3回小千谷市民オペラ「ラ・ボエーム」が、11月1日・2日の2日間、小千谷市民会館で開催されます。

今回は練習に励む合唱団の様子紹介と、オペラをもっと楽しむためのオペラQ&Aをお送りします！

ぜひご来場いただき、気軽にオペラを楽しんでもらえたら嬉しいです！



合唱団員の様子

小千谷市民オペラ合唱団は小学生5名、中学生5名、高校生2名、大人28名の計40名で活動しています。月に2回ほどの合同練習と自主練習で、本番に向けて準備を進めています。子どもたちのパワー、本気の大人たちの気力に圧倒されます！



4月～6月

初めましてのメンバーと、これからオペラを創り上げていく。緊張しながらの合同練習でした。

まずは何より歌を覚える！
楽譜を見ながら繰り返し歌い、音程と発音を確認します。
今回はイタリア語の歌なのでなかなか難しい…。
楽譜への書き込みも大量です！

7月

リズムや歌詞をある程度覚えたら、立ち上がって歌を練習していきます。
それでも利き手には常にペン。
言われたことはすぐにメモ、一生懸命覚えます。
座っているのと立っているのでは声の出かたも大違い！
メンバーはともにオペラを創り上げる仲間となり、
楽しい練習に笑顔も増えてきました(^^)♪



8月

市民会館大ホールを会場に、100人以上の観客の前で公開練習！ピアニストの河原先生のご指導のもと、歌で“表現する”ことにも挑戦しました。

歌詞の意味を理解して“表現する”ことに挑戦すると、歌の雰囲気や団員の表情が変わっていきます。
河原先生の指導を聞いて合唱団に入った中学生もいます！
音楽にはやはり人を動かすチカラがあります！



第3回小千谷市民オペラ「ラ・ボエーム」公演情報

日時：11月1日（土）午後2時開演、11月2日（日）午後4時開演
会場：小千谷市民会館 大ホール
料金：大人5,000円、中高生2,000円、小学生1,000円（当日各500円増し）
販売窓口：小千谷市民会館、セブンチケット（セブンコード：111-283）



オペラをもっと楽しむためのオペラQ&A

そもそも、オペラって何？

簡単に言うと、歌を**歌いながら劇を演じる**舞台公演です。
衣装を身に付け、舞台背景の中で演じることで、観劇者を物語へと引き込んでいきます。
実は**オペラは「恋愛」がテーマ**となったお話も多いんです！
敷居が高そうに感じるオペラですが興味深いお話も多く、見ているとついハマってしまいますよ（笑）

ラ・ボエームってどんな話？

19世紀パリを舞台に、詩人ロドルフォとお針子ミミの**儂い愛**、そして明日の成功を夢見る**若き芸術家たちの貧しくも自由な生活**を描いた**青春オペラ**です。

クリスマス・イブのパリ。

若くて貧しい芸術家4人が住む屋根裏部屋で詩人ロドルフォが独り仕事をしていると、隣人のお針子ミミがロウソクの火を貰いに現れ、二人はたちまち恋に落ちます。
画家マルチェッロも元恋人のムゼッタとよりを戻し、若者達は青春を謳歌します。
2月の雪の日、ロドルフォは胸を患うミミを救うために悲痛な別れを決意します。
数か月後、ミミはロドルフォに一目会いたいと屋根裏部屋を訪れますが、愛するロドルフォの傍らで息を引き取ってしまいます。

このお話がどんな風に小千谷verになるの？

物語の舞台が19世紀パリから、**明治・大正時代の小千谷**へと変わります！
また、小千谷ならではの演出として、**小千谷の伝統や文化**がふんだんに取り入れられます！
この2日間でしか見られない、まさに**特別な「ラ・ボエーム」**です。
ポスターの麻雀牌も、この特別な演出のうちの1つなんですよ。

オペラって見ていて意味がわかるの？

オペラはイタリア語、フランス語、ドイツ語など、様々な言語で作られており、「ラ・ボエーム」はイタリア語のオペラです。
今回は**字幕がついていますので、安心してお楽しみいただけますよ。**



市民オペラはどうやって楽しんだらいいの？

市民オペラは、普段は会社勤めや家事をしている“**芸術を仕事にしていない**”市民が主体となり、プロとともに創り上げるオペラ公演です。
小学生・中学生・高校生もオペラに挑戦しますし、今回は小学生がソロで歌う場面もあります。
ぜひ会場にお越しいただき、**面白ければ笑い、悲しければ泣き、素晴らしければ拍手を送ってください！**
ぜひこのような温かい舞台を、出演者とともに創り上げていただきたいです。